

17. 10 23 (日)
毎日、ほんしん誌

エイズの現状や 予防など考える

神戸大でシンポ

エイズ(HIV)につ
いて考えるシンポジウム
「今グローバルコミュニ



「エイズ発症者数を減らし、
神戸をモデル地域としたい」
と話す繁内代表＝神戸市灘区
の神戸大学で

ティで何が起きている
か」が22日、神戸市灘区
の神戸大学で開かれ、学
生や市民ら60人が専門家
やボランティアの話に耳
を傾けた。

国連人口基金の池上清
子・東京事務所長と東大
情報学環交流研究員の水
島希さんが国内外のエイ
ズの現状と課題を解説。

日本では、性風俗産業の
取り締まり強化から、首
都圏を中心に違法風俗店
がアンダーグラウンドに
潜り、感染者の把握がし
にくくなっていること
や、感染者をサポートす
る公的機関がないなどの
問題点を挙げた。

者が87年に神戸で初めて
確認されてから04年まで
に県内の患者・感染者が
77人に達した現状を報
告。「(行政の)予算、
人材が減り、患者・感染
者へのきめ細かいサービ
スができない」と話し、
情報収集・発信のネット
ワークづくりの必要性な
どを説いた。

性感染症の予防啓発
に取り組むボランティア
アグループ「BASE」の
KOBÉ」の繁内幸治代
表は「神戸が全国のモ
デルケースになるよう新
たな患者の数を減らす活
動を続けていきたい」と
話した。

兵庫区保健福祉部の白

井千香主幹は、エイズ患

【山口朋辰】